

ID 基礎力養成に向けた ID 実力チェックの設計

Design of ID Basic Skill Check

根本淳子^{*1}, 市川尚^{*2}, 井ノ上憲司^{*3}, 高橋暁子^{*4}, 竹岡篤永^{*5}, 鈴木克明^{*6}
 Junko NEMOTO^{*1}, Hisashi ICHIKAWA^{*2}, Kenji INOUE^{*3}, Akiko TAKAHASHI^{*4},
 Atsue TAKEOKA^{*5}, Katsuaki SUZUKI^{*6}

^{*1}愛媛大学 ^{*2}岩手県立大学ソフトウェア情報学部 ^{*3}長崎県立大学

^{*4}徳島大学 ^{*5}高知大学 ^{*6}熊本大学大学院教授システム学専攻

^{*1}Ehime University ^{*2}Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

^{*3}University of Nagasaki ^{*4}The University of Tokushima ^{*5}Kochi University

^{*6}Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: nemoto.junko.nu@ehime-u.ac.jp

あらまし：本発表ではインストラクショナルデザイン（ID）の基礎力養成を支援するための、ID 実力チェックの設計について報告する。本ツールではインストラクショナルデザインを用いた教材設計の基礎力を①入口（責任範囲）を明確にできる、②課題分析を行い、指導方略を立案できる、③形成的評価を実施して改善できる、の3点に分け、それぞれに対するスキル診断のための問題を作成しツールとして提供することとした。

キーワード：ID 基礎力、学習支援システム、インストラクショナルデザイン

1. はじめに

ID は多様な教育設計を支援するためのモデルや理論の提供を通じて実践者を支援する分野である。ID の知見が教育の質向上に役に立つ可能性は周知されつつあるが、現場において十分に活用できているとまでは言い難い。そこで筆者らは ID スキル養成の支援について実証的に検証するために、基礎力養成のための環境を Web 上に構築してきた⁽¹⁾⁽²⁾。この Web サイトには、ID に関する用語集やこれまで開発されてきた ID に関連するツールなどが含まれている。本発表では Web サイトの一部として組み込まれることを想定した ID 基礎力養成のための ID 実力チェックツールの設計について報告する。

2. ID 実力チェックツールの概要

2.1 ID 基礎力とは

ID 基礎力とは、次の二点ができることを指す。

(1) ID の体系的アプローチに従って小規模な教材を開発できる

(2) 自分が不案内な領域における教材開発プロセスについても、問題があった場合に適切な指摘ができる

ID の基礎を学ぶ書籍「教材設計マニュアル」⁽³⁾は、大学・大学院での教科書としても用いられている。本書では1時間程度の紙教材を作成するための企画書作成から教材の開発、形成的評価までを学習することができる。この教材作成活動の中でも、他者が作成した教材企画書、課題分析図や方略表、さらに教材作成報告書（形成的評価報告書）が適切であるかどうかを確認し、改善点があればどこを修正すべきか指摘できるスキルを ID 基礎力と定義した。他

者が作成した成果物に対して相互チェックができることを重視している理由は、自分が不案内な領域であっても、他者の教授内容を ID の視点で指摘ができる必要があり、これが SME（内容の専門家）との協働の基礎になっていくと考えられるためである⁽²⁾。

ID 基礎力には次の3種類の知識・スキルが含まれる（表1）。ひとつは知識レベルであり、学習目標に対応した課題分析図の種類について説明できるといった内容を含み、選択問題を用いたテストで確認することが可能である。二つ目は、他者や自分が作成した企画書等の資料を見て、不備がないかを確認し指摘できるスキルである。実際に企画書を作成する際は、この相互チェック力を用いて自らの資料をレビューすることになるため、企画書作成ができるためのスキルに含まれると言えるであろう。最後は、自分自身で企画書等の資料を作成できるスキルである。作成された資料は、漏れやミスがない完成度が高い状態であることが求められるため、難易度は3つの中で最も高い。開発する実力チェックツールでは1と2のスキルに焦点を当てて開発し、3については、システムで自動化できない部分が生じるため、個別の確認が必要になるので対象外とすることにした。

表1 ID 基礎力チェック項目

チェック項目	例
1. 知識レベルのチェック	テスト＝選択問題
2. 相互チェックできるかのチェック	企画書の不備の指摘
3. 自分で作成できるかのチェック	企画書の作成

2.2 目的と対象者

本ツールでは、ID 基礎力に対する実力を利用者自身が確認できる情報を提供し、確認できた実力不足点については、学習コンテンツを提示することで学習に誘導するところまでを狙う。また、本ツールは市川ら²⁾が開発している基礎力養成のための Web サイト (ID ポータル改訂版) 上に公開することを予定としているため ID ポータルを閲覧した人すべてが対象者となり、ID に関する既存知識やスキルは問わない。

2.3 提供方法と内容

本ツールは(1) ID ポータルにある、(2) 実力チェックツールからアクセスできる。実力チェックの中には(3)「導入」と「自己チェック」の 2 機能が用意されており、どちらを利用するかは利用者自身が選択できる。実力を診断する自己チェック機能は、他者が作成した教材に対して改善点を指摘ができるかを確認できる機能であるため、初心者にとってはハードルが高い。そこで、初心者や ID に関心を持ち始めた人向けに、開発を検討しているのが導入であり、自己チェック機能の利用ができるまでのスキル向上を目指すように誘うことも狙いにある。導入部分はまだ検討段階であるが、事例ベースでのコンテンツを想定している。

本発表で取り上げる自己チェック機能は基礎力を支える能力を次の 3 点に分けて提供することとした。

① 入口 (責任範囲) を明確にできる

教材企画書の作成に当たる部分で、学習目標の明確さ、学習目標と評価方法の整合性、学習課題の種類の適切さ、学習目標と評価テストの整合性などが対象である。ある教材設計の企画書に対して、その内容が適切かどうかを判断できる問題を用意する。

② 課題分析を行い、指導方略を立案できる

学習内容の提供方法について検討する部分であり、学習課題に適した課題分析図の選択・作成、課題に応じた方略の提案、課題分析図を基にした指導方略の提案が含まれる。ある教材作成のために用意された課題分析図やチャンクごとの作戦を見て、企画書に書かれた教材のための課題分析図や方略として適切であるかを確認できる問題を用意する。

③ 形成的評価を実施して改善できる

作成した教材を用いた評価を実施する部分に相当する。形成的評価の趣旨や必要な手順と留意点に、さらに評価の結果の解釈やレポートへの報告方法が対象となる。用意された教材作成報告書 (形成的評価報告書) を見て、実施方法や報告内容が適切であるかを確認できる問題を用意する。

能力ごとに自分のスキルレベルを確認できるテストが用意され、学習目標を確認した後に問題にアクセスできる (図 1)。自己評価結果は詳細な結果と併せて対象スキルを習得するためのリソースも提示する (図 2)。

3. 今後の課題

本発表では ID 基礎力養成ツールの設計について述べた。詳細機能を充実させ、完成後に形成的評価を実施する予定である。さらに長期的な運用させることで、実運用での成果についても調査していく必要がある。

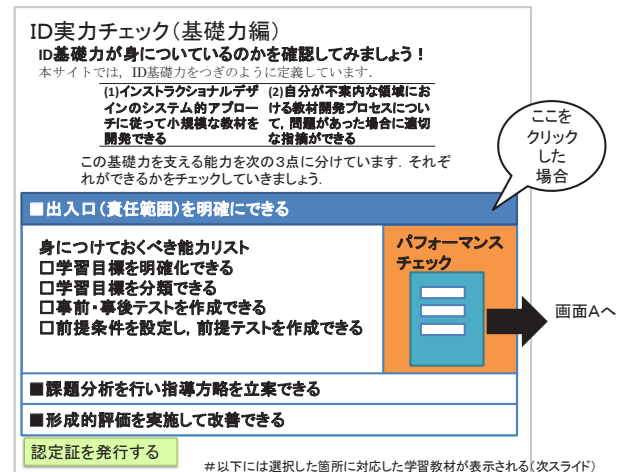


図 1 実力チェック学習項目選択画面案

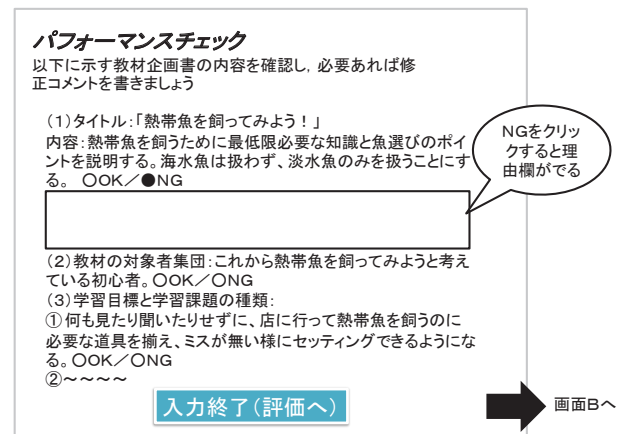


図 2 「自己チェック」画面例

謝辞

本研究は、本研究は JSPS 科研費 24700901 の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) 市川尚, 井ノ上憲司, 根本淳子, 鈴木克明: “ID 基礎力養成 Web サイトの初期検討”. 日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集, pp.921-922 (2011.9)
- (2) 市川尚, 根本淳子, 井ノ上憲司, 高橋暁子, 竹岡篤永, 鈴木克明: “ID ポータルサイトの現状と改善”, 日本教育メディア学会研究会論集 (長崎県立大学) (2014.7)
- (3) 鈴木克明: “教材設計マニュアル—独学を支援するために—”, 北大路書房, 京都 (2002)